

研究室紹介

東邦大学医学部社会医学講座
衛生学分野

教授 西脇祐司

当教室では、疫学を主たる方法論とし、大きく三つのテーマに沿って研究を行っている。一つ目は、「少子高齢化対策に資する研究」で、高齢者の加齢による機能低下予防(特に運動器、感覚器)の研究や、母子保健統計の利活用に関する研究、生活習慣病の認識率に関する研究などを行っている。二つ目の柱は、「環境要因から身を守るための研究」であり、微小粒子状物質、黄砂、日光曝露などの健康リスク評価を実施している。とくに、日光曝露に関しては、これまで不可能であった目に入る紫外線、可視光の定量評価システムを工学者とともに開発したところである。三つ目の柱は、臨床各科と共同で行う「臨床疫学研究」であり、とくに現在は慶應義塾大学整形外科と共同で、椎間板の加齢変性、筋骨格系慢性疼痛、特発性側弯症などをターゲットに研究を行っている。どのテーマも社会的に必要、かつ夢中になれるテーマであり、今後もさらに発展させていきたい。

得られた研究成果を社会に還元できることが最終的な目標である。産業保健分野に関して言えば、高齢者の労働管理、働く世代からの連続した運動器、感覚器の機能低下予防、生活習慣病予防対策、ブルーライトのリスク評価などで貢献できると考えている。また、こうしたテーマに興味ある方にはぜひ当教室の門を叩いて頂きたいと思う。羽田空港、品川駅、東京駅に近い当教室は、交通利便性も高い。お近くにお寄りの際は、ぜひ教室に足をお運びください。

